

「つながりを切らない」情報・交流ネットワーク

現場の声

⑧

アンケート調査から 見えてきたこと

宝塚市社会福祉協議会では、活動を徐々に再開している自治会やグループがあるため、コロナの活動への影響やこの間に工夫して取り組んだ活動、社協に希望する支援内容等について、6月に生活支援やサロンの活動者へのヒアリング、自治会にはアンケート調査を実施しました。

活動を中止または休止している自治会等が多いなか、活動を継続している自治会等では、「会議の人数を減らす」「戸外での打ち合わせ」「オンラインを活用」「3密への配慮と時短」など、独自の工夫があることも垣間見えています。また、生活支援やサロンの活動者からは、参加者のADLが落ちてきているという報告を受けている一方で、活動への不安もありつつ、「一度に集まれなくても、できることをしていきたい」という力強い意見も複数の自治会から寄

せられました。

いままで地域福祉活動に積極的でなかった自治会もありますが、そうした自治会のなかから、「見守り活動に自治会として取り組み必要がある」と回答してくれているところが出てきています。コロナ禍になったことで、自宅にひきこもりがちになる高齢者の安否や健康状態の悪化に危機感を持ち、見守り活動に対する意識が高まったことが想定されます。市社協としても丁寧に関わっていかねければと思っています。また、複数の自治会で、特別定額給付金の申請を支援している様子が見受けられます。

た。「必要な書類をコピーして添付する」ということも、コンビニエンスストアにコピーに行くこともたいへんな住民のために、自治会館のコピー機を開放したりして支援をしていました。

このような小さな意識の変化は、長い目で見ると地域づくりにつながっていきます。私たちも、そうした変化を敏感に感じ取って働きかけを進めていかなければと思っています。

宝塚市社会福祉協議会
（兵庫県）
常務理事 佐藤寿一

2020年8月6日